

国 語

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4) 各領域において、言語活動を通して資質・能力を育成することができるような内容・構成になっているか。 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと
	(5) 我が国の言語文化に関する指導の充実を図ることができるよう工夫されているか。
	(6) 読書活動に結び付くよう工夫されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

III 具体項目

観点	発行者	東 書	三省堂	教 出	光 村
<p>1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえ、豊かな人間性の育成を図る上での特長</p>	<p>(1) 像成「的科」の特質に及び「教育の目標」「教育の成」の育成が内容、構成人の間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化、戦争・平和、防災・安全、環境、多様性社会、キャリア教育といった、様々な課題に関する教材を取り上げることで、伝統文化や多様性を尊重する態度や、よりよい社会の形成に参画する態度を育成することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報、言語、自然科学、環境、国際理解、平和、SDGsといった現代的な諸課題に関する教材を取り上げることで、豊かなものの見方・考え方を尊重する態度や、よりよい社会の形成に参画する態度を育成することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の多様な課題を国語科の視点で教材化した「SDGs教材」を全学年に系統的に配置することで、豊かなものの見方・考え方を尊重する態度や、様々な課題に向き合い、他者と協働しながら解決する能力を育成することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土ゆかりの作家や作品を紹介する資料を位置付けたり、SDGsの各項目に該当する題材を取り上げたりすることで、郷土の伝統と文化を重んじる態度や、様々な課題に向き合い、よりよい社会の形成に参画する態度を育成することができるよう配慮されている。
	<p>(2) 然ふるさといと長崎の伝統・文化や歴史、生かせ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年『碑』では、広島原爆に関する内容が取り上げられており、同じ被爆県として関連がある。「読書案内」では、被爆体験談が記された『ナガサキノート』が紹介されている。 3年『生ましめんかな』は、広島に投下された原爆を題材として扱っており、同じ被爆県として関連がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年『壁に残された伝言』では、広島に投下された原爆に関する内容が取り上げられており、同じ被爆県として関連がある。 3年「読書の広場」では、広島に投下された原爆に関わる作品である『黒い雨』が取り上げられており、同じ被爆県として関連がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年「ふるさとの文学」では、長崎の外海を舞台としたキリスト教にまつわる作品である、遠藤周作の『沈黙』の碑が紹介されている。 3年『語り継ぐもの』では、原爆詩を朗読する筆者の思いとともに、本県出身の作家である筒井茅乃の『娘よ、ここが長崎です』や作曲家大島ミチルが取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年『大人になれなかった弟たちに…』では、広島・長崎の原爆が取り上げられている。3年『挨拶』では、広島原爆を題材として扱っており、同じ被爆県として関連がある。 2年「郷土ゆかりの作家・作品」では、長崎の外海を舞台としたキリスト教にまつわる作品である、遠藤周作の『沈黙』が取り上げられている。

Ⅲ 具体項目

観点 発行者	東 書	三省堂	教 出	光 村
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、	<ul style="list-style-type: none"> 教材末の「広がる言葉」や資料編の「言葉を広げよう」において、多数の語例を示すことで、多くの言葉を学習することができるよう工夫されている。 基礎編の「学びを支える言葉の力」において、生徒に身近な題材を通して、様々な言葉の力を取り上げることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材ごとにある「語彙を豊かに」において、教材に関連した語句を取り上げることで、多くの言葉を学習することができるよう工夫されている。 教材末の「思考の方法」及び巻末の「思考の方法一覧」において、思考の方法を図式化して示すことで、基礎的・基本的な知識・技能や論理的思考力を確実に習得することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉の小窓」や「文法の小窓」において、他の教科や日常生活と関連する言葉を提示することで、多くの言葉を学習することができるよう工夫されている。 巻末において「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」を提示することで、基礎的・基本的な知識・技能や論理的思考力を確実に習得することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力向上に特化した教材を各学年に配置することで、段階的・継続的に、多くの言葉を学習することができるよう工夫されている。 情報の整理法や関連付けを育成する小単元を各学年に配し、フローチャート等を多く用いることで、基礎的・基本的な知識・技能や論理的思考力を確実に習得することができるよう工夫されている。
確かな学力の育成を図る上での特長	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」で身に付けた言葉の力を「話す・聞く」「書く」へとつなげる構成とし、前の教材で習得した知識・技能を活用して、次の教材の学習課題を解決することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 「読むこと」の文学教材においては、同じ目標のもと短編、長編の2作品を連続して掲載し、目標とする力の習得と活用を繰り返すことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教材末において、習得した知識・技能を活用して表現や交流に取り組む「学びを広げる」を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 巻末の資料編の「学習用語辞典」では、他教科や日常生活に役立つ用語を示すことで、生徒が主体的に学習課題に取り組み、知識・技能を活用して、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのチャレンジ」において、習得した知識・技能を活用しながら、様々な課題に取り組む問題を設けることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 巻頭の「言葉の地図」では、教材をSDGsの視点で分類して整理することで、現代的課題に向き合い、考えを深めることを通して、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教材において、習得した知識・技能を活用するためのポイントを明示し、領域や教科を超えた活用を促す「学習の窓」を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 巻末の「学習を広げる」では、本編の教材で学習したことのポイントを掲載し、習得した知識・技能を他の教材や日常生活で活用することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。

Ⅲ 具体項目

観点	発行者	東 書	三省堂	教 出	光 村
2 学習指導要領の目標や内容等の特長	(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「言葉の力」と「学びを支える言葉の力」の一覧を示すとともに、本編中にある「学びの扉」を導入とした基礎編「学びを支える言葉の力」を設けることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・生徒同士が助言し合ったり、議論を通して考えを深め、互いの考えを生かして結論をまとめたりする言語活動を数多く設けるとともに、キャラクターを用いて話合いの見本を示すことで、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「領域別教材一覧」を設け、各領域においてどのような資質・能力を身に付けるのかを視覚的に提示することで、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・「読むこと」単元に設定されている「読み方を学ぼう」では、「何をどのように読めば力がつくのか」を図解で示し、他教材や自主的な読書、表現活動などで繰り返し活用できるようにすることで、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文や学習活動の前に、その教材で何をどのように学ぶのかを具体的に示した「学びナビ」を設けることで、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・全学年にSDGsと関連した教材「持続可能な未来を創るために」を設け、生徒一人一人が現代の多様な課題に対して自ら考え、意見を交流する活動を仕組むことで、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「学習の見通しをもとう」で、1年間の国語学習の全体像を示し、どのような資質・能力を身に付けるのかを提示することで、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・「読むこと」単元に学習の流れを明確にまとめた「学習」のページを設けるとともに、巻末付録に学習内容を整理した資料を配し、いつでも活用できるようにすることで、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されている。

III 具体項目

発行者		東書	三省堂	教出	光村
観点					
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	(4) A 「話すこと・聞くこと」	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの扉」では、日常生活の中で陥りがちなつまづきの場面を漫画で描き、言葉の学びの意義を伝えるとともに、話す・聞く活動に取り組みやすくなるようにすることで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・3年「話し合いで意見をまとめよう」では、生徒同士が助言し合いながら議論を通して考えを深め、互いの考えを生かして結論をまとめる活動を設定することで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年「パブリックスピーキング」では、日常生活や現代社会における課題を取り上げ、対話を通して考えたり問題解決したりする機会と場を充実させることで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・各学年の第1単元には、「グループディスカッション」を設け、対話を効果的に行うための「話し合いのこつ」を系統的に示すことで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の始めに「学びナビ」を設け、どのように思考力を働かせると効果的であるかを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化することで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・3年「『対話力』とは何か」では、対話の大切さを実感できるようにするとともに、「読む」から「話す・聞く」につながる教材を設定することで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材においては、図解や例を基に学習のポイントを明示するとともに、思考を可視化させる方法や話型などを随所に紹介することで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・全学年に「豊かに表現するために」の折り込みページを設け、発達段階に応じた言語活動を配列するとともに、「主体的に聞く力」を系統的に位置付けることで、言語活動を通して話す・聞く能力を身に付けることができるよう工夫されている。
	B 「書くこと」	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「小さな発見を詩にしよう」では、短い文にまとめた例、詩の下書きの例、詩の完成例等、詩歌創作の学習の流れに沿った活動例を示すことで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・2年「いきいきと描き出そう」では、学習目標、学習の流れ、「言葉の力」の欄で学習のポイントを示し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにすることで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の第6単元「情報を関係づける」では、図表・文章など多様な情報を関連付けながら、現代的課題について考え、書く学習を設定することで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・「説明・記録・引用」「創作」「意見」「編集」「批評」等、各学年の発達段階や、教材の連続性を考慮した学習を系統的に設定することで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年「根拠をもとに意見文を書く」等、言語活動の内容を教材名で明確に表すとともに、「目標」「学習活動の流れ」で学習活動の見通しと重点を示すことで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・「手紙」「意見文」「投書」「説明」「批評」等、社会生活の中で求められる「表現力」「コミュニケーション力」の育成を重視した学習を設定することで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「情報を整理して書こう」、2年「多様な方法で情報を集めよう」、3年「多角的に分析して書こう」等、多様なテーマ・文種を設定することで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 ・巻頭「思考の地図」や「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」では、表やグラフ、マップなどを、考えを可視化したり形成したりする技法として示し、書く活動に生かせるようにすることで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。

III 具体項目

発行者 観点		東 書	三省堂	教 出	光 村
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	(4) 各領域において、言語活動を通して構成・能力を育成することができるような内容・構成になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動と合わせた単元構成によって「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」と有機的に関連付けるとともに、「資料編」として本編の作品と読み比べることができる小説・説明文を掲載することで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 ・本編中の「学びの扉」や基礎編「学びを支える言葉の力」で、文章を読むための基礎的な力を示すとともに、巻末にそれらを一覧表としてまとめ、教材間、学年間の関連性、系統性を明確にすることで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の「学びの道しるべ」で、言語活動の流れや思考、語彙に関する解説を示すとともに、各学年の「プレ教材」や各教材の「読み方を学ぼう」において、段階的・系統的な習得・活用場を設定することで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 ・各教材の「読み方を学ぼう」や「思考の方法」で、「何をどのように読めば力がつくのか」という読みの方略を図解で示したり、それらを様々な場面で活用しやすいよう巻末に一覧表としてまとめたりすることで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の冒頭に「学びナビ」を設定し、読み方や読む視点、内容把握の方法を示すとともに、課題を考えるための七つのキーワードに沿って単元を構成し、単元ごとに「広がる本の世界」で関連する図書を紹介することで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 ・「学びナビ」で「何を・どのように学ぶか」を文章や図解で示し、「ここが大事」や「みちしるべ」との連携によって言語活動の流れや目標を明確にするとともに、「学びのチャレンジ」を設定することで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の「学習」を上下2段に整理し、言語活動を明確に示すとともに、「振り返る」で「何ができるようになったか」を自分の言葉で書く活動を設定することで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連付けながら、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。 ・巻末に「『学習の窓』一覧」として、文章を読むための基本的な観点を整理して提示するとともに、「学習を振り返ろう」では、問題に取り組み、身に付けた力を確認することで、読む能力を確実に身に付けることができるよう工夫されている。
	(5) 我が国の言語文化に関する指導の充実を図ることができるよう工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の古典学習の導入では、「移り行く浦島太郎の物語」「伊曾保物語」という親しみやすい教材を取り上げ、古典学習の意義を示すとともに、巻末の資料編において、古典作品の冒頭部分や伝統芸能などを取り上げることで、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができるよう工夫されている。 ・物語仕立ての「日本語探検」、ゲーム感覚で取り組める「文法の窓」、練習問題形式の「漢字道場」を設けることで、生徒の学習意欲を高めるとともに、巻末の資料「基礎編」に詳しい文法解説及び練習問題を掲載することで、適宜基本事項を確認することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の古典学習の導入では、「月」をテーマにした説明文を取り上げ、現在と昔の暦の違いについて考えさせながら古典学習の足がかりとするとともに、巻末の資料編において、多くの関連古文や伝統芸能などを紹介することで、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができるよう工夫されている。 ・複数の文を見比べる「文法の窓」、言語活動や練習問題と組み合わせた「言葉発見」「漢字のしくみ」を設けることで、生徒の学習意欲を高めるとともに、「文法のまとめ」で解説や練習問題を掲載することで、適宜基本事項を確認することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の古典学習の導入では、桃太郎や浦島太郎といった親しみやすい話題を取り上げ、古典学習の意義を示すとともに、本編中の「四季のたより」や巻末の「言葉の自習室」において、和歌や古典文学の名作などを紹介することで、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができるよう工夫されている。 ・会話形式の文章を読む「言葉（文法）の小窓」、社会生活における言葉の重要性を示した「言葉と社会」を設けることで、生徒の学習意欲を高めるとともに、巻末の「解説教材」で言葉や文法に関する詳しい解説や練習問題を掲載することで、適宜基本事項を確認することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の古典学習の導入では、古典学習の意義や3年間の学習の見通しを系統的に示すとともに、「季節のしおり」で季節にちなんだ文学作品の冒頭部分や詩歌を、巻末では他の古典作品や伝統芸能を取り上げることで、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができるよう工夫されている。 ・音読や条件作文などの言語活動に取り組む「文法への扉」、既習漢字を使った短作文づくりに取り組む「漢字に親しもう」を設けることで、生徒の学習意欲を高めるとともに、巻末で文法に関する解説や練習問題を取り上げることで、適宜基本事項を確認することができるよう工夫されている。

III 具体項目

発行者 観点	東 書	三省堂	教 出	光 村
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(6) 読書活動に結びつくよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書への招待」を各学年3単元設け、日本の名作を取り上げたり、多彩なテーマで本を紹介したりすることで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 ・著名人がおすすめの本を紹介する「私のおすすめの本」を設けることで、読書への関心を高めることができるよう工夫されている。 ・全学年とも「読書活動」では、読書を楽しんだり、情報を活用したりする活動を設定することで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「小さな図書館」では、全学年六つのテーマでものの見方や考え方を深めることができる本を多数紹介することで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 ・各学年ともに「私の読書体験」として作家の読書体験を紹介することで、読書への関心を高めることができるよう工夫されている。 ・「読書活動」として、1年ではブッククラブ、2年ではビブリオバトル、3年ではブックトークを取り上げることで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書への招待」を各学年2単元設け、日本の名作を解説とともに取り上げたり、多様な作品を紹介したりすることで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 ・各単元の付録に「広がる本の世界」として単元内容に関わる本を紹介することで、読書への関心を高めることができるよう工夫されている。 ・「読書への招待」では、1年でポップ作り、2年でレポート作成、3年でビブリオバトルを取り上げることで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」教材末の「広がる読書」や読書教材内の「本の世界を広げよう」で多数の本を紹介することで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。 ・「本の中の中学生」では、中学生が主人公である小説等の一部分を紹介することで、読書への関心を高めることができるよう工夫されている。 ・「読書を楽しむ」では、読んだ本を紹介し合ったり、感想を共有したりする活動を設定することで、読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。
<p>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長</p>	<p>(1) 文章量は、適切に記述と質・量とが適切に配置されている。また、1年では、古文教材を多数取り上げることで、古典学習導入の充実が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学、説明文、詩歌、古典等の「読むこと」教材と「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材が、質・量とも適切に配置されている。また、1年では、古文教材を多数取り上げることで、古典学習導入の充実が図られている。 ・本編・基礎編・資料編の三部構成にすることで、本編で学びながら、基礎編や資料編を活用し、学習の補充・深化を図ることができる記述となっている。 <p>(2) 写真・図表・挿絵を配置することで、理解を深めることができるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすいキャラクター、物語やゲームを取り入れた教材、漫画による導入などを取り入れることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。 <p>(3) 奇数ページ上部に、領域、単元名、教材名を記し、領域ごとに色分けすることで、学習箇所が開きやすくなるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年では、導入教材の活字を大きくすることで、小学校からスムーズに移行できるよう配慮されている。 	<p>(1) 文章量は、適切に記述と質・量とが適切に配置されている。また、情報に特化した単元を設けることで、現代的課題に対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学、説明文、詩歌、古典等の「読むこと」教材と「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材が、質・量とも適切に配置されている。また、情報やSDGsに関する文章を取り上げることで、現代的課題に対応している。 ・本編・資料編の二部構成とし、本編で教材ごとに学習した「思考の方法」や「読み方」を資料編で一覧にまとめて掲載することで、分かりやすい記述となっている。 <p>(2) 文学教材では、内容にふさわしい色彩の挿絵を用いることで、想像力を引き出し、理解を深めることができるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み方を学ぼう」や「思考の方法」では、分かりやすい図解を随所に用いることで、内容を視覚的にとらえることができるよう配慮されている。 <p>(3) 「読書の広場」と「資料編」のページの端に色をつけることで、「本編」と区別しやすくなるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの道しるべ」は、見開きのレイアウトにすることで、情報のまとまりが分かるよう配慮されている。 	<p>(1) 文章量は、適切に記述と質・量とも適切に配置されている。また、情報やSDGsに関する文章を取り上げることで、現代的課題に対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学、説明文、詩歌、古典等の「読むこと」教材と「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材が、質・量とも適切に配置されている。また、文学教材では、名作に加え、現代作家の作品が偏りなく取り上げられている。 ・教材の導入として、「学びナビ」を設定することで、読み方や何を学ぶかなど見通しをもって学習することができる記述となっている。 <p>(2) 文学教材では、挿絵を少なくし、抽象的な絵柄を用いることで、想像力を引き出すことができるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文教材では、図表に加え、内容に関連した写真を多く用いることで、内容を視覚的にとらえたり、理解を深めたりすることができるよう配慮されている。 <p>(3) 奇数ページ上部に、教材名を記すとともに、「読むこと」と他領域を色分けすることで、学習箇所が開きやすくなるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年では、2・3年より文字を大きく、行間を広くすることで、発達段階に配慮されている。 	<p>(1) 文章量は、適切に記述と質・量とも適切に配置されている。また、現代作家の作品が偏りなく取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学、説明文、詩歌、古典等の「読むこと」教材と「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材が、質・量とも適切に配置されている。また、文学教材では、名作に加え、現代作家の作品が偏りなく取り上げられている。 ・巻末の資料「学習を広げる」に、教材の学習を通して身に付ける力のポイントを一覧にまとめて掲載することで、分かりやすい記述となっている。 <p>(2) 説明文教材では、学習内容と関連した写真・図表・挿絵を配置することで、理解を深めることができるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「思考の地図」や情報教材、「書くこと」教材に図表やグラフを用いることで、学習意欲を高めたり、理解を深めたりすることができるよう配慮されている。 <p>(3) 巻末資料の端をインデックスのように内容や色で分類することで、学習箇所が開きやすくなるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに文字の大きさ・行詰めのデザインを変えることで、発達段階に配慮されている。